

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 23 No 11

268号

平成27年11月10日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

オレンジリボン

院長

皆さんは、「オレンジリボン活動」を知っていますか。このオレンジリボンには「児童虐待防止」というメッセージが込められています。

毎年11月は「児童虐待防止推進月間」と呼ばれ、様々な団体によるキャンペーンイベントが行われます。「オレンジリボンキャンペーン」の目的は、一人でも多くの方々に「児童虐待防止」に関心を持ってもらうための活動です。

この活動は、2004年小山市の痛ましい虐待事件をきっかけに始まりました。「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動ですが、子ども虐待の防止の直接的・具体的な活動ではありません。児童虐待防止全国ネットワークによると、「わたしたち一人一人が「子育てにやさしい社会」を作ることが、子ども虐待の防止につながります。子ども虐待防止の活動には、さまざまなものがあります。この運動では、子ども虐待防止に賛同される方が、それぞれ胸にオレンジリボンを着けることで、子ども虐待防止の活動に参加していただけるのです。オレンジリボンは、子育てを暖かく見守り、子育てをお手伝いする意志のあることを示すマークなのです。」

さてご承知のように虐待の児童相談所での相談対応件数は年々増加し、平成26年では約8万9千件で、平成11年の7.6倍になっています。児童虐待による死亡件数は減少傾向にあるものの、昨年でも60人を超えている状況です。何となく身近な問題と考えるにくいことですが、仙台でも決して希なものでは無く、昨年6月には宮城野区で母親の交際相手が2歳児に暴行を加えて死亡させた事件、12月には青葉区で母親が4ヶ月児を虐待死させた事件がありました。

さて私たちは虐待防止のために、どんなことをしたらいいのでしょうか。CLINIC NEWSで虐待を取り上げるのは3回目です。その一文を紹介します。「まず大事なことは、いい機会ですから虐待について考えてみてください。虐待を見逃さないように、疑いがある場合には児童相談所に通告(通報)することも大切なことであることを覚えておいてください。そして、自分が虐待をしそうになったら、誰かに救いを求めることです。話すだけでも気が楽になります。子どもに対する自分の対応が気になったら、お友達やクリニックにで



も気軽に相談してみましよう。」(平成22年8月号)

今年7月から児童相談所全国共通ダイヤルが「189」になりました。児童相談所というと虐待の通告ということ連想しますが、必ずしもそうではありません。図に示したように通告以外にも、自身の子育ての悩みや誰かが子育てに悩んでいることを伝えることができる相談窓口なのです。通告という言葉は聞くとハードルが高い気がしますが、通告・相談は、匿名で行うこともでき、通告・相談をした人、その内容に関する秘密は守られます。もちろん通告した後で虐待でないとなくなっても、通告した人が処罰されることがありません。

さて小児科医は虐待防止に、どうかかわっているのでしょうか。医療現場での大きな役割は、虐待の早期発見です。医療ネグレクトという言葉があり、虐待を受けている子どもは適切な医療を受けていません。救急の場では虐待例に遭遇することがありますが、通常の診察場面で虐待を見つけることは現実的には困難です。ご承知のように当院では開業以来「お母さんの不安・心配の解消」を理念に様々な活動を行っています。この不安や心配が時として、虐待につながると言われています。この理念を元にした活動が、虐待防止につながっていくことを信じて取り組んでいます。さらに皆さんの目に見えないところでも行政と連携しながら、様々な会議に出席し虐待防止のための具体的な活動を行っています。もうひとつ取り組んでいることは、小学4年生への『命の大切さ』を伝える性教育です。この活動を通して、自分、そして友人や全ての生命を大切にすることを育てたいと願っています。

虐待はある意味、病気と同様に考えることができます。虐待で死亡することや障害を残すことは、まさに同じです。虐待は早期発見が必要と示しましたが、最も重要なことは予防であることに疑う余地がありません。病気がワクチンで予防できることと同じで、様々な取り組みがワクチンとなることに期待しています。小児科医だからといって特別なことができる訳ではありません。こんな小さな積み重ねが、虐待防止につながることを願っています。

この記事で伝えたいことは、皆さんの周囲でも虐待は存在しているのです。虐待を防止するという意味からも、オレンジリボン活動を知ってください。そして、この記事を読み直し、自身の子育てを見つめ直し、何かひとつでも虐待防止でできることがあるかを考えてみてください。

11月のお知らせ

- ・医学部学生実習
20日(金)
ご協力をお願いします。
- ・栄養育児相談
11・25日(水)
栄養士担当、参加無料

『がんばろう! 宮城 がんばろう! 日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

メールは7通でしたが、CLINIC NEWSの発行が遅れて10月号「あなたは大丈夫?!子どもの救急蘇生」の感想を紹介してしまいました。他はプライバシーにかかわることが多かったので、遠くてなかなか通えない大和町の吉田さんからの医療相談を会話風に掲載してみます。

「おはようございます。昨晚のメールは間違いです。すみませんm(_ _)m相談でメールしたつもりだったのに、前回送ったメールを送ってしまいました(;;)ご相談です。娘なのですが、今月に入り毎週のように熱を出して…初めは手足口だったらしく、口が痛いとはん食べられず、口だけで済んだので落ち着いたと思ったら、先週頭に微熱。1日で落ち着いたのですが、週末鼻水が出始めて、昨日はまた熱。夜になるにつれて、高くなり38.7℃だったので、坐薬を使いました。夜中は何度も目覚めて、私も寝不足気味です(^_^;)」

でも、保育園にも預けてないし、だらだらと風邪が続くのも心配で…というメールを送ったつもりでした。イタズラメールではないので、お許し下さいm(_ _)m。

確かに病気をくり返すと心配は強くなります。どう考えたらいいかを返信しました。どのようなメールだったのでしょうか。「メールありがとうございます。まずくり返して病気にかかることを親御さんは、よく心配します。しかし我々医師の考え方は違います。病気にかかることを感染といいいますが、感染するというはその病気に対して免疫を持っていないということです。例えばどんな屈強なスポーツマンでも水痘に罹患していなければ、水痘の子どもと一緒に数時間過ごせば必ず感染するものです。ですから免疫を持っていない病気にはかかることは止むを得ないのです。問題となるのは感染することではなく、重症化することです。風邪や手足口病のウイルスに感染すると、決まって熱が長引き入院となるようでは問題です。つまり免疫に問題があれば、治す力がないから重症化するのです。考え方は、今のうちに風邪等にかかり、免疫を付けていると気軽に考えましょう。」と返信しました。

その後患者さんの想いのこもったメールを頂きました。「(略)今月は、手足口から始まり、風邪が続いてるのが心配で、大きな病気だったら…と不安になっていました。先生のお話を聞いて、免疫をつける時期なんだなあと思いました。先生に診てもらうのが一番なのでしょうけど、具合悪い娘を遠くに連れて行きづらく、でも、私も安心したいし…といつも葛藤です。本当にありがとうございます。次熱出たら診てもらいに行きたいと思います(笑)。ありがとうございました。」

今回のメールのやり取りは、いつも説明しているように「母親の不安・心配の解消」です。そして、「遠くにいてもかかりつけはかかりつけ」の見本です。

臨時休診のお知らせ

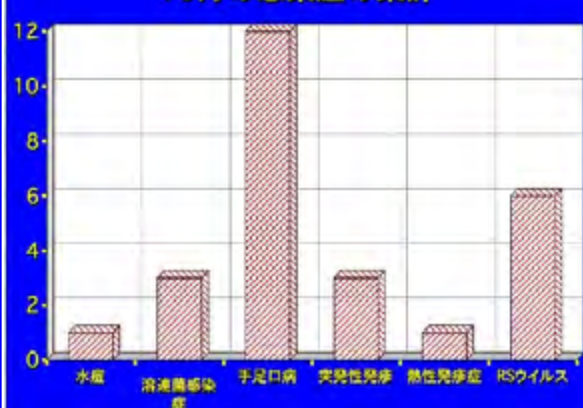
十四大都市医師会連絡協議会のため

12月5日(土)休診となります

皆様には大変ご迷惑をおかけします。

よろしくご理解の上、ご協力をお願い致します。

10月の感染症の集計



手足口病は下火になり、最近ほとんどみられません。水痘はワクチンの効果で全国的にも減少が続いています。溶連菌感染症も減ってきました。RSウイルスの検出が増え、喘鳴の子どもが多くみられています。最近麻痺を引き起こすエンテロウイルス68型が話題になっています。9月にウイルス分離に協力いただいた当院の患者さんから検出されましたが、いずれも軽症でした。



子ども医学講座のご案内

「感染症を防ごう～微生物のことを知り、手洗いの仕方を学ぼう～」

講師：東北大学病院総合感染症科 賀来 満夫教授
教室の皆さん

司会：川村和久(かわむらこどもクリニック医長)

日時：平成27年11月14日(土)14:00～

会場：仙台市急患センター 仙台市医師会館 2階ホール

対象：小・中学生(事前予約不要)

参加費：無料

内容：冬にはインフルエンザをはじめ、様々な感染症が流行します。感染症の原因には細菌とウイルス(病原体)がありますが、その違いを知っていますか?『こども医学講座』では、目の前で細菌の集まり(コロニー)を見たりしながら病原体の違いを知るだけでなく、伝染する仕組みについても学びます。そして感染症で最も重要なことは予防です。実際に「手洗い」がどれだけ効果があるかを器械で実験したり、マスクの付け方を通して、感染予防について学びましょう。ひよっとすると新型ロボットも登場するかも…?

子どもたち保護者にとって役立つこと請け合いで、感染症の大家が直接教える滅多にない機会です。小中学校のお子さんをお持ちの方、お問い合わせの上ご参加ください。

当日は午後休診となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

Mail News, Facebook の紹介

Mail Newsは、550人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合は



MailNews



Facebook

指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

編集後記

相変わらず仕事出張が多く、なかなかNEWSまで手が回らない状況が続いています。一面に虐待に関する記事を書きました。実は仙台市の虐待死のケース会議にも出ています。実際の状況を聞くと悲しみだけでなく、怒りが込み上げてきます。このようなケースを見るにつけ、小児科医として「命の大切さ」を伝えなければならぬと感じています。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!